

郡山市制施行100周年記念
“音楽都市こおりやま”市民音楽祭参加行事

郡山マンドリンクラブ
第22回定期演奏会

午後のひととき

～マンドリンとともに～

2024年 9月16日(月・祝)

開演 14:00

場所 メグレスホール

後援：郡山市・郡山市教育委員会



演奏曲目

第1部

狂詩曲「海」／鈴木静一

組曲「杜の鼓動」より第2楽章「魂の還る場所」／丸本大悟

劇的序奏「細川ガラシャ」／鈴木静一

休憩15分間

第2部

亡き王女のためのパヴァーヌ／M.ラヴェル／央戸秀明編

女神／井上陽水／小川琢也編

Fly me to the moon／B.ハワード／青山涼編

エスクアロ(鮫)／A.ピアソラ／武田洋之編

ドラクエメドレー／すぎやまこういち／武田洋之編

曲目解説

●狂詩曲「海」

作者は1901年東京に生まれた。

1922年には東京プレクトラムソサエティの創立に加わり、24年にはイタリアへ渡る。25年には東京マンドリンクラブを主宰、27年には東京マンドリン協会の創立指揮者となる。

その後、日本ビクターに入社し、しばらくプレクトラム音楽から遠ざかり、東宝映画等の映画音楽に従事した。

1965年斯界に復帰。その後の4年間に大作を立て続けに発表、一躍斯界の第一人者となった。

本曲は1927年作者26歳の若書きである。氏の斯界復帰後の70年に改作され、管楽器を含む大規模な編成となったが、本日は弦楽でのみの演奏となる。

〈作曲者記〉

—知らぬ間に後退する`ひき潮、の静けさには衰退(おとろえ)を感じる—キラキラと美しく輝きながら—
だが海はその中で巻返しをたくらむ!

`ひき潮、は引きしぼられる弓ずる矢はやがて切ってはなたれる!

`あげ潮、磯を打ち砂浜を噛む浪!浪!

その時海は湧らつとはち切れるばかり活気に充ちる!そしてその極限に来る`満潮、ののどかさ、おだやかさ—
この狂詩曲は平穏の日の海の一日のくり返しを描いてゆく。

●組曲「杜の鼓動」より第2楽章「魂の還る場所」

作曲者は1979年生まれ。3楽章からなる組曲だが、それぞれ単独の委嘱作品であり2003年中に単独で初演された。6年前、当クラブの第17回定期演奏会では仙台の樺並木をイメージした第1楽章「樺の風景」を演奏した。今回の第2楽章「魂の還る場所」は「杜」本来の意味である神社の「鎮守の森」や「御神木」をイメージした曲で、初演が京都であったことに起因していると思われる。印象的で美しいメロディーが流れ、どこか懐かしい場所を訪れたような気持ちになる曲である。

●劇的序楽「細川ガラシャ」

本曲は1968年に鈴木静一によって作曲された。以下は作曲者本人の解説である。

「本曲は織田・豊臣時代の動乱した世に明智光秀の三女に生れ、信長の媒酌で細川忠興に嫁したが、父光秀の謀反に端を発した波乱多き37年の生涯を送り、最後は秀吉亡き後の豊臣方の策謀に抗して自らの決意で侍臣の刃先を胸もとに受けて火焰の中に身を投じ、徳川幕府300年間、熊本城主細川の家系を永続させる礎となった麗しき烈婦細川ガラシャを描いた譚詩曲である。」



出演者

O:パートトップ

Conductor

武田洋之 長川千穂

1st Mandolin

舟山久美子 O松岡 節 O横澤裕也 小林志津子 原 康夫

2nd Mandolin

北川智子 須永多賀子 O富樫智美 深沢友紀
深谷笑子 本田真知子 吉成 智

Mandola Tenore

上野さちら O村上明子 渡辺穂美 植竹重之

Mandolon cello

遠藤玲菜 金井柊馬 熊田茂範 佐藤良子 O深見彰子

Guitar

O赤間絵美 今泉仁誠 續橋英一 長川千穂 春山秀城 大関真奈美

Contrabass

O上野 博

Percussion

菅野 梓(賛助)

メンバー募集(経験者)のお知らせ

郡山マンドリンクラブでは、
メンバーを随時募集しております。
右記までお気軽にお問い合わせください。

練習時間／毎週土曜日 午後4時～7時
練習場所／中央公民館
お問い合わせ／koriyama.mandolin@gmail.com
KMCホームページ／<http://www.idic.jp/kmc>